

別添資料

(3. 生物生産学部)

| | | |
|----|---------------------------------------|----|
| 1 | 広島大学中期目標と 生物生産学部中期目標との対比 | 1 |
| 2 | 教育改革事業 | 2 |
| 3 | 主専攻プログラムの例 | 2 |
| 4 | 生物生産学部教員配置表 | 3 |
| 5 | 生物生産学部の施設 | 4 |
| 6 | アドミッション・ポリシー | 4 |
| 7 | AO入試 | 5 |
| 8 | カリキュラム・ポリシー | 5 |
| 9 | COC地(知)の拠点整備事業 | 6 |
| 10 | 研究者養成特別コースプログラム | 6 |
| 11 | AIMS-HUプログラム | 7 |
| 12 | 英語による授業科目 | 8 |
| 13 | ディプロマ・ポリシー | 8 |
| 14 | 学部教育に関するアンケート | 8 |
| 15 | 学部生の学会等における受賞 | 9 |
| 16 | 学部卒業生の主な進路 | 9 |
| 17 | 職業別・産業別就職状況 | 10 |

別添資料1 広島大学中期目標と生物生産学部中期目標との対比

(出典：生物生産学部作成)

| 広島大学中期目標 | 生物生産学部中期目標 |
|---|--|
| <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標</p> <p>(学士課程)</p> <p>入学者受入れの方針に基づき、入学希望者の進路意識や学力の多様化に対応した入学者選抜により、優秀かつ多様な人材の受入れを行う。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>(学士課程)</p> <p>② 国際化に対応した能力を身に付けた人材を養成する。</p> <p>③ 教育内容の充実、教育方法の改善等を行い、教育の質の向上を図る。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し、教育の質の向上を図る。</p> <p>4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p> <p>3 その他の目標</p> <p>(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。</p> | <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標</p> <p>(学士課程)</p> <p>アドミッションポリシーに基づき、入学希望者の進路意識や学力の多様化に対応した入学者選抜により、優秀かつ多様な人材の受入れを行う。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>(学士課程)</p> <p>② 食料生産と生物資源の有効利用の分野で、国際化に対応した能力を身に付けた人材を養成する。</p> <p>③ 教育内容の充実、教育方法の改善等を行い、教育の質の向上を図る。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し、教育の質の向上を図る。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p> <p>3 その他の目標</p> <p>(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。</p> |

別添資料2 教育改革事業

(出典：生物生産学部作成)

| 教育改革支援事業等名称 | 取組名(プロジェクト名称) | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|-------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 第2期 | | | | | | 第3期 | | |
| 理数学生育成支援事業 | 理数学生育成プログラム(広島大学型アクティブラーニングによる研究者養成特別コースプログラム) | | ← | → | → | → | → | | | |
| 大学の世界展開力強化事業【AIMSプログラム】 | アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材(タイ・カセサート大学との交換留学) | | | ← | → | → | → | | | |
| 地(知)の拠点整備事業 | 平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点 | | | ← | → | → | → | | | |
| 教育関係共同利用拠点 | 食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点 | | ← | → | | | | | | |
| | 食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点(再認定) | | | | | | ← | → | | |
| | 瀬戸内海における里海学フィールド教育拠点(広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション(水産実験所)) | | | | ← | → | → | | | |
| | 瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点(教育拠点(広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸)) | | | | ← | → | → | | | |

* 網掛け：事業実施期間、矢印(実線)：文部科学省等経費支援期間、矢印(点線)：学長裁量経費支援期間

別添資料3 主専攻プログラム詳述書の一例

(出典：広島大学ホームページ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/prog/syusenkou/>)

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名 [生物生産学部（生物生産学科）]

| | |
|--|--|
| プログラムの名称（和文） （英文） | 生物圏環境学プログラム Integrated Ecoscience Program |
| 1. 取得できる学位 | 学士（農学） |
| 2. 概要 | <p>生物生産学部の5つの主専攻プログラム（生物圏環境学、水産生物科学、動物生産科学、食品科学および分子細胞機能学）では、生物生産に係わる自然科学から社会科学に及ぶ幅広い知識と知恵を身につけさせることを目標とする。具体的には、①生物資源と食料生産、バイオテクノロジー、生物環境の保全に関する基礎的知識の修得、②フィールド科学分野の体験学習、③生命倫理や技術者倫理の理解、④英語等の語学能力や情報処理能力の修得を目指した教育を行う。</p> <p>生物圏環境学主専攻プログラムは、6つの教育科目（海洋生態系評価論、水域循環制御論、植物栄養生理学、植物環境分析学、食料生産管理学、食料市場学）に所属する教員により実施され、生物圏における生命の営みとその人間による利用を総体的に理解するために、生命現象と物質循環に関する幅広い教育・研究を行っている。</p> <p>本プログラムの特徴は、生物圏を構成する次の3つのフィールド、すなわち、陸域の生物生産（その基本となる植物生産とそれを支える土壌の構造と機能）、水域の生物生産とその生態系の構造、食料生産から消費・廃棄にいたる人間の営みとその社会システムについて広く学びながら、研究室配属後は、より具体的対象についての深い理解や研究へと進むことができる。対象となるフィールドに応じて分析手法も異なるが、物理・化学的手法、生物学的手法、社会経済学的手法についても幅広く身につけることができることも本プログラムの特徴である。</p> <p>本プログラムを終了した学生は卒業後、大学院への進学や農林水産関係の官公庁、環境・食品・化学・医薬等に関係する業界で、国際的視野を持った研究者・専門技術者となることを期待する。</p> |
| 3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） （学位授与の方針） | <p>生物圏環境学主専攻プログラムでは、生物圏の総体的理解をふまえ、陸域・水域・人間社会という3つのフィールドについて幅広く学びながら、生物圏における具体的対象について深く学習することができる。こうした学習を通して、本プログラムでは、食料生産や資源の循環・有効利用を目指す農林水産および環境・エネルギー等の分野に関わる企業や法人機関等における専門技術者等として活躍し、生物圏の食料・生物生産機能と環境保全機能の向上に貢献できる人材を養成する。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（農学）」の称号を授与する。</p> <p>（プログラムの到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物圏における生命の営みとその人間による利用を、生命現象と物質循環を通して総体的に理解できる。 ・陸域の植物生産と、それを支える土壌の構造と機能について理解できる。 <input type="checkbox"/> 水圏の生物生産と生態系の構造について理解できる。 <input type="checkbox"/> 人間の食料生産の営みとその社会システムについて理解できる。 <input type="checkbox"/> 生物圏における生命の営みとその人間による利用の現場への具体的アプローチの技術や方法を身につける。 <input type="checkbox"/> 生物圏の具体的諸事象について、自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、意見交換できる。 |
| 4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） | <p>生物圏環境学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。</p> <p style="text-align: center;">＜以下、略＞</p> |

別添資料 4 : 生物生産学部教員配置表(平成27年5月1日現在)

(出典: 生物生産学部作成)

| 主専攻 プログラム名 | 教育科目 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 |
|------------------|--------------|-----|-----|----|-----|-----|
| 生物圏環境学 プログラム | 海洋生態系評価論 | 1人 | 2人 | | | 3人 |
| | 水域循環制御論 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 植物栄養生理学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 植物環境分析学 | | 1人 | 1人 | | 2人 |
| | 食料生産管理学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 食料市場学 | 1人 | | | 1人 | 2人 |
| | 計 | 5人 | 6人 | 1人 | 1人 | 13人 |
| 水産生物科学 プログラム | 水圏資源生物学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 水族生態学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 水産増殖学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 水族生理学 | 1人 | 1人 | | 1人 | 3人 |
| | 水族病理学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 水族生化学 | | 1人 | | 1人 | 2人 |
| | 海域生物圏部門 計 | 1人 | 1人 | | 1人 | 3人 |
| 計 | 6人 | 7人 | 0人 | 3人 | 16人 | |
| 動物生産科学 プログラム | 家畜育種遺伝学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 家畜生殖学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 家畜飼養学 | 1人 | | | 1人 | 2人 |
| | 家畜管理学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 家畜生体機構学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 陸域生物圏部門 計 | 1人 | 1人 | | 2人 | 4人 |
| | 計 | 6人 | 5人 | 0人 | 3人 | 14人 |
| 食品科学プロ グラム | 海洋生物資源化学 | 1人 | | | 1人 | 2人 |
| | 動物資源化学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 食品物理学 | 1人 | | 1人 | | 2人 |
| | 食品工学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 食品衛生学 | 2人 | | | | 2人 |
| | 分子栄養学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 計 | 7人 | 3人 | 1人 | 1人 | 12人 |
| 分子細胞機能 学プログラム | 生態機能物質化学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 生体分子機能学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 微生物機能学 | 1人 | 1人 | | | 2人 |
| | 酵素化学 | 1人 | | 1人 | | 2人 |
| | 免疫生物学 | 2人 | | | | 2人 |
| | 計 | 6人 | 3人 | 1人 | 0人 | 10人 |
| 共通(外国人教員) | | | 1人 | | | 1人 |
| 附属練習船豊潮丸 | | | 1人 | | 1人 | 2人 |
| 合計 | | 30人 | 26人 | 3人 | 9人 | 68人 |

別添資料5 生物生産学部の施設 (出典：生物生産学部学生便覧及び生物生産学部作成)

| | |
|---------------------|------------------|
| 学部施設 | 恒温実験水槽棟 |
| | 屋外実験水槽 |
| | 家畜環境制御実験棟 |
| | 家禽・家畜舎 |
| | 精密実験圃場 |
| | 温室・ガラス室・網室 |
| | 食品製造実験実習棟 |
| | ラジオアイソトープ実験棟 |
| | 工作機械実習棟 |
| 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター | 西条ステーション (農場) |
| | 竹原ステーション (水産実験所) |
| 学部附属練習船 | 豊潮丸 |

別添資料6 アドミッション・ポリシー

(出典：広島大学学生募集要項)

学部の理念と目標に賛同し、幅広い教養と高度な科学的知識・技術を身につけるための基礎学力と向上心を持ち、
 次のような資質を持つ多様な人材を求めています。

- ・ 21世紀の食料や環境の問題に興味があり、物事を総合的に考える事ができる。
- ・ 生物とその機能に関心があり、問題意識が旺盛である。
- ・ 陸や海などのフィールドでの活動が好きで、行動力がある。
- ・ 学習し、考えた事を的確に自己表現できる。

別添資料 7 A0 入試出願要件

(出典：広島大学 A0 選抜学生募集要項総合評価方式)

A 型（専門型） 生物生産学部生物生産学科での勉学を強く希望し、学業成績、人物ともに優れ、高等学校において高い評価を受けており、合格した場合、必ず入学することが確約できる者で、次のいずれかに該当するもの

- ①高等学校において水産、農業及び食品製造など、本学部の教育コース（生物圏環境学コース、水産生物科学コース、動物生産科学コース、食品科学コース、分子細胞機能学コース）のいずれかに関連する学科に在籍する者
- ②高等学校の総合学科において水産、農業及び食品製造など、本学部の教育コースのいずれかに関連した専門科目を 25 単位以上修得する見込みの者

B 型（研究者養成型） 生物生産学部生物生産学科での勉学を強く希望し、学業成績、人物ともに優れ、高等学校等において高い評価を受けており、合格した場合、必ず入学し、研究者養成特別コース（※1）プログラムを履修することが確約できる者で、次のいずれかに該当するもの

- ①高等学校等において理数科又は普通科の理数系コース（※2）に在籍する者
- ②SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている高等学校等に在籍し、プロジェクトあるいは課題研究に相当する科目を2年以上履修している又は見込みの者
- ③過去3年間に日本生物学オリンピックの予選において上位10%の成績を収めた者

※1 研究者養成特別コースとは、研究者になる強い意思を持つ学生が、4年間の学部教育において、大学院への進学を前提に幅広い知識と能力を培うことを目的に開設されたコースである。特別コースの学生は、学部5教育コースのいずれかのプログラムと特別コース独自のプログラムを併せて履修する。卒業後は大学院に進学し、研究力を磨きグローバルに活躍できる研究者を目指す。

※2 普通科の理数系コースとは、普通科の中にあつて、入学定員を個々に設定し、高等学校等の入学段階から普通科の理数系コースに応じた別の教育課程による教育を受けるものをいい、大学受験のために設けられたコースは除く。

C 型（一般型） 生物生産学部生物生産学科での勉学を強く希望し、学業成績、人物ともに優れ、高等学校等において高い評価を受けており、合格した場合、必ず入学することが確約できる者で、普通科、理数科又は総合学科に在籍しており、上記A型の総合学科に該当していないもの

別添資料 8 カリキュラム・ポリシーの一例(出典：生物生産学部学生便覧)

○生物圏環境学プログラム

- ・1年次前期・後期には、主に「基盤科目」、「教養教育科目」などを通じて、平和、環境、社会問題をはじめとする幅広い教養を身につけ、基盤的学力の醸成を行います。
- ・2年次前期には、学部共通の「専門基礎科目」を通じて、専門分野を学ぶために必要な基礎知識を養います。実験科目として、生物生産学部共通の基礎化学実験、基礎物理学実験、基礎生物学実験を履修し、基礎的な実験トレーニングを行います。
- ・2年次後期から、主専攻プログラムに所属します。2年次後期から3年次前期では、生物圏の総体的理解と陸域・水域・人間社会といった3つのフィールドに関する専門的教育を行います。
- ・3年次後期からは、各研究室に配属され、卒業論文を通じて、総合的能力を養うとともに、主専攻プログラム全体を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等も養います。

別添資料 9 地（知）の拠点整備事業「COC」（出典：広島大学 HP，生物生産学部 HP）

広島大学 地（知）の拠点大学による地方
創生推進事業中山間地域島しょ部対策領域

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（地（知）の拠点）は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携して地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、その課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの形成による地方創生を目指しています。

広島大学の地（知）の拠点は、「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」をテーマにしていますが、この中で生物生産学部は、広島県の重要な地域課題になっている「中山間地域や島しょ部の地方創生」に取り組んでいます。大学が中山間地域や島しょ部などで先進的取り組みを行っている自治体や地域の組織・企業等と連携し、農山漁村等の現場で起こる問題の解決と地域の活性化を通じた「地方創生の拠点形成」を目指します。

広島大学 地（知）の拠点中山間地域島しょ部対策領域ホームページ

<http://hirodaicoc.hiroshima-u.ac.jp/chiikitaisaku/2016/03/30/coc/>

COC 関連授業科目

| |
|------------------------|
| 教養ゼミ |
| 中山間地域・島しょ部連携特別講座 |
| 中山間地域・島しょ部連携インターンシップ |
| 中山間地域・島しょ部フィールドワーク特別実習 |

別添資料 10 研究者養成特別コースプログラム

（出典：生物生産学部学生便覧・研究者養成特別コースパンフレット）

生物生産学部では、生命、食と環境分野の学問への意欲と情熱，大学院に進学し研究者になる強い意思を持つ学生が，より学習意欲を高め能力を研くことができるように，教育プログラムの枠を超えた「研究者養成特別コース」を設けている。この特別コースでは，広島大学で導入している「到達目標型教育プログラム（HiPROSPECTS®）」の生物生産学部5主専攻プログラムとともに特別コース用のカリキュラムを実施する。このカリキュラムは，国内外で活躍できる研究者の育成を目指したものであり，所属する学生は，特別コースのプログラム修了後には大学院への進学を前提として学ぶものである。学部在籍する4年間に研究者になるために必要な発展的な専門的知識や実践技術をスムーズに身につけるため，1年次から体系的なプログラムを履修する。2年次後期には希望する教員へ直接配属され，通常のコースよりも1年早く専門分野の研究を開始する。具体的なカリキュラムや教員への配属方法は以降を参照すること。教員へ配属された学生は，特別コースのプログラムを履修するとともに，卒論指導教員が所属する主専攻プログラムに自動的に分属することとなる。特別コースプログラムの全課程及び主専攻プログラムを修了した学生は，卒業証書とともに特別コース修了証書を授与される。

特別コース学生の選抜と継続数及び進学数

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 博士課程前期 |
|---------|-----|-----|-----|-----|--------|
| 平成23年度生 | 9人 | 9人 | 9人 | 9人 | 9人 |
| 平成24年度生 | 8人 | 9人 | 9人 | 9人 | 9人 |
| 平成25年度生 | 12人 | 10人 | 10人 | | |
| 平成26年度生 | 12人 | 10人 | | | |
| 平成27年度生 | 12人 | | | | |

別添資料 11 AIMS-HUプログラム(出典：生物生産学部ホームページ)

AIMSとは

広島大学は、文部科学省が支援する「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。この事業は、AIMSプログラムの枠組みを活用した単位互換を伴う交換留学制度です。AIMSとは、「ASEAN International Mobility for Students」の略で、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイの各国と日本とが加盟し、学士課程の学生を対象にグローバルで活躍できる人材育成を目的に大学間で相互に学生を政府派遣する制度です。生物生産学部もこのプログラムに参画し、タイのカセサート大学と2014年度後期から交換留学を開始します。

プログラム名称

アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム

プログラムの目的・養成する人材像

本学の基本理念「平和を希求する精神」と「地域社会・国際社会との共存」に基づき、本学において強みのある学問分野の教育・研究資源を提供し、アジアの共同経済発展と信頼関係の確立と平和構築に貢献する中核人材を育成する。

派遣先

カセサート大学(タイ王国)

カセサート大学HP <http://www.ku.ac.th/english/index.php>

対象者

学部生

派遣人数

年間10名

派遣期間

1学期間(8月～12月)

派遣時期

8月中旬～12月末

派遣内容詳細

広島大学生物生産学部からは、カセサート大学の農学部・経済学部・水産学部・アグロインダストリー学部への学部生交換留学を行う。

カセサート大学 [インターナショナルプログラムのコース紹介](http://taip.agr.ku.ac.th/new/study-plan) (参考までに)
<http://taip.agr.ku.ac.th/new/study-plan>

別添資料 12 英語による授業科目（出典：生物生産学部 AIMS-WG 作成）

<AIMS プログラム用開設科目>

| 授 業 名 |
|---|
| 1.Global Environmental Issues and Managements |
| 2.Animal Science and Technology |
| 3.Physiology of Field Crop Production |
| 4.Insect Science |
| 5.Modern Food Science |
| 6.Molecular-Level Understanding of Functionality of Foods |
| 7.Fish Production |
| 8.Plankton Biology |
| 9.Introductory Physiology of Domestic Animals |
| 10.Tropical Aquaculture |
| 11.Resource Management |

別添資料 13 ディプロマ・ポリシーの一例（出典：生物生産学部学生便覧）

○生物圏環境学プログラム

食料生産や資源の循環・有効利用を目指す農林水産および環境・エネルギー等の分野に関わる企業や法人機関等における専門技術者等として活躍し、生物圏の食料・生物生産機能と環境保全機能の向上に貢献できる人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（農学）」の称号を授与します。

- ・生物圏における生命の営みとその人間による利用を、生命現象と物質循環を通して総体的に理解できる。
- ・陸域の植物生産と、それを支える土壌の構造と機能について理解できる。
- ・水圏の生物生産と生態系の構造について理解できる。
- ・人間の食料生産の営みとその社会システムについて理解できる。
- ・生物圏における生命の営みとその人間による利用の現場への具体的アプローチの技術や方法を身につける。
- ・生物圏の具体的諸事象について、自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、意見交換できる。

別添資料 14 学部生の学会等における受賞（出典：生物生産学部作成）

| 受賞者氏名 | 賞の名称 | 授与年月日 |
|-------|------------------------------|-------------|
| 河合 春奈 | 日本食品工学会第11回年次大会 優秀口頭発表賞 | 平成22年8月19日 |
| 濱田 秀一 | 日本動物遺伝育種学会・学会長特別賞 | 平成24年10月6日 |
| 大西 諒貴 | 日本動物遺伝育種学会・学会長特別賞 | 平成24年10月6日 |
| 山本 瑞季 | 第65回日本細菌学会中国・四国支部総会 若手優秀発表賞 | 平成24年10月20日 |
| 池田 敦子 | 第31回 YEAST WORKSHOP ポスター賞 | 平成25年11月2日 |
| 岡本 拓海 | 日本食品工学会年次大会 優秀口頭発表賞 | 平成25年8月10日 |
| 安部 晶大 | 第13回極限環境生物学会 ポスター賞 | 平成24年12月1日 |
| 三吉 優香 | 第19回ハインドガットクラブジャパンシンポジウム 奨励賞 | 平成25年12月7日 |
| 池田 敦子 | 2013年度日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞 | 平成26年1月20日 |
| 山根 大典 | 2015年度日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞 | 平成28年2月22日 |

別添資料 15 学部教育に関するアンケート（抜粋）

（出典：教育改革推進委員会報告書（平成 26 年 3 月））

- 質問 3：生物生産学部の教育内容，教育方法の改善体制について，思い当たる箇所に○印を記載してください。

生物生産学部の教育内容，教育方法の改善体制に関するご希望をお聞かせください。

満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）

ご意見を記載してください。_____

教育内容，教育方法の改善体制に関するご希望をお聞かせください。_____

- 質問 8：学生が身に付けた学力や資質・能力について，思い当たる箇所に○印を記載してください。

満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）

ご意見を記載してください。_____

学生が身に付けるべき学力や資質・能力に関するご希望をお聞かせください。_____

※関係部分のみ抜粋

別添資料 16 学部卒業生の主な進路（H22-25 年度）

（出典：生物生産学部作成）

学内進学（219）

他大学進学（15）

広島市（6）

東広島市（2）

呉市（2）

広島県（8）

長崎県（4）

島根県（2）

愛媛県（2）

福岡県（2）

全国農業協同組合連合会（4）

JA 全農ミートフーズ（4）

山崎製パン（3）

日本チャンキー（3）

日本食研ホールディングス（2）

三栄源エフ・エフ・アイ（2）

ピククルスコーポレーション（2）

コスモス薬品（3）

三井住友銀行（3）

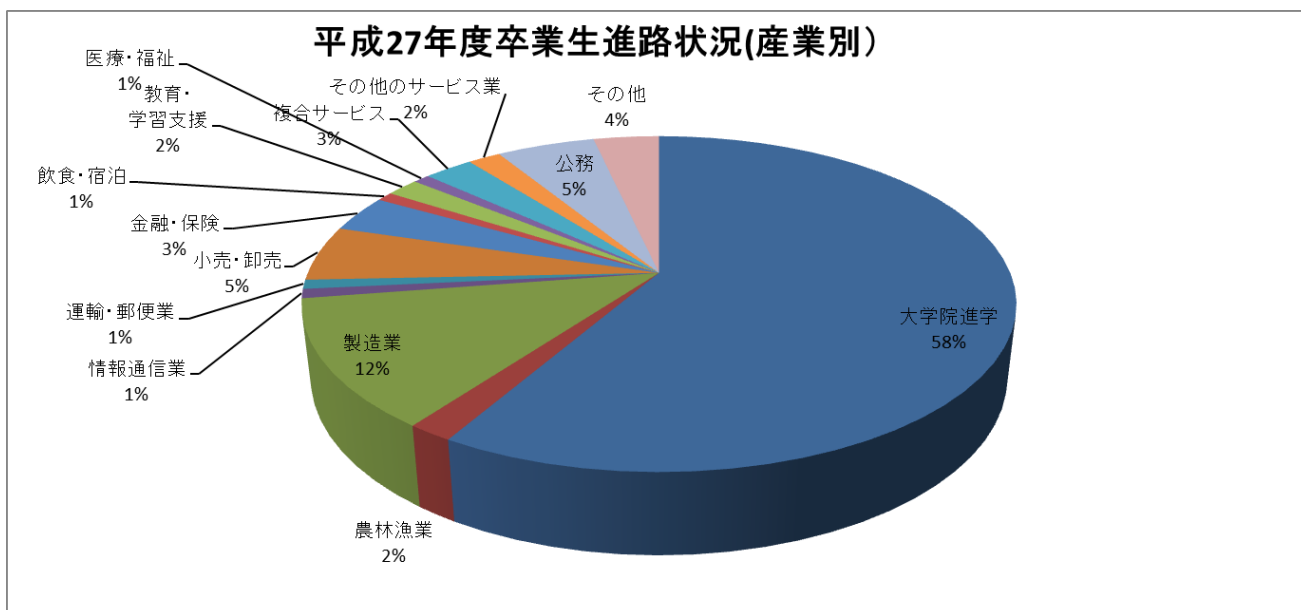
広島 HART クリニック（2）

アース環境サービス（2）

鷗州コーポレーション（2）

ソフトバンク（2）

別添資料 17 職業別・産業別就職状況（出典：生物生産学部作成）



| 内 訳 | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-----|-------|--------|-------|-------|-------|---------|-------|--------|-----------|----|-----|------|
| 大学院進学 | 農林漁業 | 製造業 | 情報通信業 | 運輸・郵便業 | 小売・卸売 | 金融・保険 | 飲食・宿泊 | 教育・学習支援 | 医療・福祉 | 複合サービス | その他のサービス業 | 公務 | その他 | 計 |
| 66人 | 2人 | 14人 | 1人 | 1人 | 6人 | 4人 | 1人 | 2人 | 1人 | 3人 | 2人 | 6人 | 4人 | 113人 |
| 58% | 2% | 12% | 1% | 1% | 5% | 4% | 1% | 2% | 1% | 3% | 2% | 5% | 4% | 100% |